

文化人類学専修

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 開講 semester | 開講曜日・講時 | 平成30年度以前入学 者 読替先授業科目 |
|-----------|--|----|------------------|----------------|--------------------------|----------------------------|
| 文化人類学概論 | 文化人類学と現代世界 (1) | 2 | 沼崎 一郎 | 3 | 前期 水曜日 2講時 | |
| 文化人類学概論 | 文化人類学と現代世界 (2) | 2 | 沼崎 一郎 | 4 | 後期 水曜日 2講時 | |
| 文化人類学基礎講読 | 華南における文化アイデンティティと 差異の政治—中国への返還間近の 香港で、香港人人類学者による考察 | 2 | 金丸 芙美 | 3 | 前期 火曜日 3講時 | |
| 文化人類学基礎講読 | 専門文献読解1 | 2 | 川口 幸大 | 4 | 後期 火曜日 3講時 | |
| 文化人類学基礎演習 | 専門文献読解1 | 2 | 越智 郁乃 | 3 | 前期 月曜日 4講時 | |
| 文化人類学基礎演習 | 専門文献読解2 | 2 | 包 双月 | 4 | 後期 月曜日 4講時 | |
| 文化人類学各論 | 東南アジアの文化人類 学 | 2 | 速水 洋子 | 集中(5) | 集中講義 | |
| 文化人類学各論 | 災害人類学 | 2 | ポレー・ベンメレン・セバスチャン | 6 | 後期 金曜日 3講時 | |
| 文化人類学演習 | 英語古典原書講読 | 2 | 沼崎 一郎 | 5 | 前期 木曜日 2講時 | |
| 文化人類学演習 | 文化人類学研究計画 法 | 2 | 沼崎 一郎 | 6 | 後期 木曜日 2講時 | |
| 文化人類学実習 | フィールドワーク実習 | 2 | 越智 郁乃 | 5 | 前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時 | |
| 文化人類学実習 | フィールドワーク実習 | 2 | 越智 郁乃 | 6 | 後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時 | |

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB33205, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学と現代世界（1）

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology and Contemporary World (1)

3. 授業の目的と概要：この講義の目的は、Franz Boas, *Anthropology and Modern Life* (1928) を参照しつつ、現代世界において重要な問題とは何か、その解決に文化人類学は貢献しうるのかを考えることである。本書を取り上げるのは、本書執筆当時すなわち第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期の状況が現代世界のそれに酷似しているのではないかという問題意識からである。およそ 90 年前にボアズが論じた課題をふりかえり、いま我々が考えなければならない課題は何かを探りたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to examine the relevance of cultural anthropology to the urgent issues of our time by rereading Franz Boas's *Anthropology and Modern Life* (1928). The reason for doing so is that the world today seems alarmingly similar to the interwar period of 1918-1939 in which Boas wrote this book. Revisiting the issues Boas addressed 95 years ago will help us explore what issues we ought to address today.

5. 学修の到達目標：「文化人類学的に考える」習慣を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the habit of "thinking anthropologically"

7. 授業の内容・方法と進度予定：

2～3回の講義を一組とし、ボアズの著作の1章の内容を紹介した後に、その現代的意義を論じ、新たな課題を提示する。これを繰り返す。

講義を聞き、級友と協力して講義ノートを作成してもらおう。講義ノートは、単に講義内容をまとめただけでなく、講義を聞きながら抱いた疑問と、自分なりの答えを書き加えたものでなければならない。そのために、講義後に、級友とその日の講義について話し合っ、その話し合いの記録をとること。

考えながら講義するので、進度予定は立てられない。

8. 成績評価方法：

毎回の感想 (50%) と講義ノート (50%)

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業後に級友とその日の講義について議論し、講義ノートをまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

担当教員の沼崎は本年度をもって定年退職となるので、この講義が「最終講義」となる。

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学と現代世界（2）

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology and Contemporary World (2)

3. 授業の目的と概要：この講義の目的は、Franz Boas, *Anthropology and Modern Life* (1928) を参照しつつ、現代世界において重要な問題とは何か、その解決に文化人類学は貢献しうるのかを考えることである。本書を取り上げるのは、本書執筆当時すなわち第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期の状況が現代世界のそれに酷似しているのではないかという問題意識からである。およそ 90 年前にボアズが論じた課題をふりかえり、いま我々が考えなければならない課題は何かを探りたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to examine the relevance of cultural anthropology to the urgent issues of our time by rereading Franz Boas's *Anthropology and Modern Life* (1928). The reason for doing so is that the world today seems alarmingly similar to the interwar period of 1918-1939 in which Boas wrote this book. Revisiting the issues Boas addressed 95 years ago will help us explore what issues we ought to address today.

5. 学修の到達目標：「文化人類学的に考える」習慣を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the habit of "thinking anthropologically"

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に引き続き、2～3 回の講義を一組とし、ボアズの著作の 1 章の内容を紹介した後に、その現代的意義を論じ、新たな課題を提示する。これを繰り返す。

講義を聞き、級友と協力して講義ノートを作成してもらおう。講義ノートは、単に講義内容をまとめただけでなく、講義を聞きながら抱いた疑問と、自分なりの答えを書き加えたものでなければならない。そのために、講義後に、級友とその日の講義について話し合っ、その話し合いの記録をとること。

考えながら講義するので、進度予定は立てられない。

8. 成績評価方法：

毎回の感想 (50%) と講義ノート (50%)

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業後に級友とその日の講義について議論し、講義ノートをまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

担当教員の沼崎は本年度をもって定年退職となるので、この講義が「最終講義」となる。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：金丸 英美

コード：LB32305, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：華南における文化アイデンティティと差異の政治—中国への返還間近の香港で、香港人人類学者による考察
2. Course Title (授業題目)：CULTURAL IDENTITY AND THE POLITICS OF DIFFERENCE IN SOUTH CHINA
3. 授業の目的と概要：この授業では、香港生まれの歴史人類学者ヘレン・シュウ (Helen Siu) が 1993 年に発表した英語論文の講読を通して、中国への返還 (1997 年) 目前の華南 (中国南部) 地方と香港の役割がどのようなものであったかを振り返り、当時の華南および香港の政治経済状況と文化的アイデンティティの様相を人類学的に理解することを目的とする。
この授業は、学術的な英文の読解力向上を目指す。受講生は、教材テキストを毎回 3 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to improve your reading skills in academic English. Students are required to prepare Japanese translation of English texts (3-pages per class) and take turns to present their translations in class. The text to be used is a 1993 article by Helen Siu, a Hong Kong born historical anthropologist, on the political economic condition and cultural identity in South China and Hong Kong before the “hand-over” of 1997. Students are expected to appreciate anthropological ways of understanding identity construction.
5. 学修の到達目標：(1) 英文読解力を養う。
(2) 華南・香港の事例から人類学的見方を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Improve English comprehension skills
(2) Learn anthropological perspectives through a case study of South China and Hong Kong
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入 授業方法の説明 Abstract 香港の歴史と社会
 - 2~7 回 論文講読
 - 8 回 中間試験
 - 9~14 論文講読
 15. まとめと期末試験

毎回、3 ページ分の訳文を準備して授業に臨み、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。

その他、人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけましょう！
8. 成績評価方法：

毎回の授業での訳文の口頭発表 (30%)
筆記試験 (中間・期末) (70%)
出席を重視する (欠席 - 3 点)。授業回数の 3 分の 2 以上出席しなければならない。やむをえず欠席する場合には授業の前後にメールで欠席理由を連絡をすること。
9. 教科書および参考書：

テキストを授業中に配布する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業前に約 3 ページ分の訳文を準備し、授業後は授業での討論を踏まえて自分の訳文を修正する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

出席を重視する (欠席 - 3)。授業回数の 3 分の 2 は出席しなければならない。やむをえず欠席をする場合には授業の前後にメールで欠席理由を連絡をすること。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解1
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)
3. 授業の目的と概要：文化人類学の代表的な主題について、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各主題に関連した代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の考え方と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To learn main research topics of cultural anthropology through literature study
5. 学修の到達目標：文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn theory and ethnography of cultural anthropology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 文化人類学とは
 3. フィールドワーク
 4. 家族と親族
 5. 宗教
 6. ジェンダーとセクシュアリティ
 7. 社会関係
 8. 植民地主義
 9. エスニシティ
 10. 移民
 11. トランスナショナリズム
 12. 多文化共生
 13. 観光
 14. 経済
 15. 人類学の応用
8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB31404, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：複雑な社会をいきなり研究しようとしても、どこから始めたらいいのか途方に暮れるだろう。この授業では、文化人類学でながく培われてきた思考の道具立てとして、ジェンダー（社会的・文化的性差）を取り上げ、それらに関する基礎文献を講読することで、研究の手がかりと文化人類学の概括的な知識を得る。次に各テーマに関連した代表的な民族誌を読み解くことで、文化人類学の思考法と研究方法がいかなるものかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course takes up gender, explores basic literature regarding these themes, and helps students obtain a fundamental understanding of cultural anthropology. Students will also read major ethnographies relating to these themes and learn basic methods of anthropological thinking.

5. 学修の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve basic understanding of the themes and methods of cultural anthropology through reading basic literature and group discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：ジェンダーで学ぶ文化人類学
2. 男は狩りに、女は採集に？
3. 父系、父権、遊牧、イスラーム
4. 母系社会と権力
5. 宇宙と身体の共鳴
6. 越境する女 — 市場を仕切る女性商人
7. 働く — 性別役割分業の多様性
8. つがう — 結婚の多様な形
9. 産む — 生殖観と子ども観の変容
10. 育てる — 社会の中の子育て
11. 女になる、男になる — ジェンダー儀礼
12. 性をゆさぶる — トランスジェンダー
13. 開発は女性を解放したか
14. 病いへのまなざし — 日本におけるジェンダーと HIV/AIDS 像の構築
15. マイノリティとジェンダー — 在日コリアン二世・三世の見合いから

8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席、授業時の口頭発表、議論参加 [60%]

9. 教科書および参考書：

田中雅一・中谷文美 編 2005 『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
他の文献については授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LB41403, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：専門文献解読
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：この授業では、最新の民族誌を精読し、文化人類学について概括的な知識を得る。そして、文化人類学の思考法と考え方を学んでゆく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To learn main research topics and theory of cultural anthropology through literature study and discussion.
5. 学修の到達目標：基礎文献の精読と討論を通じて、文化人類学を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn main research topics and theor of cultural anthropology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、イントロダクション
 - 2、権力の「余白」
 - 3、社会と国家の関係
 - 4、多民族社会
 - 5、紛争と移動
 - 6、脱植民地化
 - 7、戦争と地域社会の再編
 - 8、権力のはざままで
 - 9、不可侵の秩序空間
 - 10、社会主義改造と地域社会の再編
 - 11、越境して生き延びる
 - 12、越境者と国家
 - 13、他者との差異の認識
 - 14、権力の「余白」を生きる
 - 15、まとめ
8. 成績評価方法：

レポート[40%]、出席[20%]、その他(授業時の口頭発表と議論参加)[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業についての予習ノートの作成
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5) 単位数：2

担当教員：速水 洋子

コード：LB98813, 科目ナンバリング：LHM-CUA304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：東南アジアの文化人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Southeast Asia

3. 授業の目的と概要：文化人類学の文化理解や概念は種々変遷を遂げても、民族誌的アプローチがその中核にある点は変わらない。ただし、民族誌をめぐっても多くの議論がなされてきた。本講義では、そうした議論をまずおさえた上で、それをふまえて東南アジアについて民族誌的アプローチを通じて理解する。民族、宗教、ジェンダー、家族そしてケアといったテーマを取り上げて、文化人類学の概念について東南アジアの事例から学ぶと同時に、東南アジアの文化・社会について学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Although understanding culture and concepts in cultural anthropology have undergone various debates and changes, the ethnographic approach remains at the core of the discipline. There have been much debates regarding ethnography. This course will try to understand Southeast Asia through an ethnographic approach after first understanding some of these arguments. By discussing themes such as ethnicity, religion, gender, family, and care, we will learn relevant concepts in cultural anthropology through case studies from Southeast Asia, and at the same time learn about the culture and society of Southeast Asia.

5. 学修の到達目標：(1) 民族誌的アプローチについて考え、エスノグラフィをめぐる重要な議論について理解する。

(2) 宗教、ジェンダー、家族、ケアなどをめぐる文化人類学の概念について、東南アジアを事例に学ぶ。

(3) 東南アジア地域の現状、その多様性や特色を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To think about the ethnographic approach and understand the important debates surrounding ethnography.

(2) To learn about cultural anthropological concepts related to religion, gender, family, care, etc., using case studies from Southeast Asia.

(3) To understand the current situation, diversity and characteristics of the Southeast Asian region.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1-3. 序論 民族誌的アプローチ

4-6. 宗教再考

7-9. ジェンダー・セクシュアリティ・インターセクショナルリティ

10-12. 家族とは

13-15. ケアと老い

8. 成績評価方法：

授業への貢献と最終レポート

9. 教科書および参考書：

授業のなかで紹介します。

Readings will be introduced during class.

10. 授業時間外学習：授業に臨む前あるいは授業期間中に、自身で選んだ民族誌を一点読んで、それについて語れるように準備してください。東南アジアに関わるものに限りません。

Read an ethnographic writing of your choice before coming to class (or during the week of the class) and be prepared to talk about it in class (not limited to works related to Southeast Asia).

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

各テーマでできる限り動画資料を見て議論する機会を持つ。

For each theme, we will have the opportunity to watch and discuss video materials as much as possible.

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-CUA304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の種類、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Anthropology's opening of the twenty-first century has been marked by a growing field surrounding the phenomena referred to as "disasters". The word disaster brings to mind natural hazards (earthquakes, hurricanes, tsunamis, floods, volcanic eruptions), so-called man-made accidents (plane crashes, train derailments, nuclear accidents, car accidents), epidemics, famines, wars, genocides and more recently, terrorist attacks. Reflecting on its legitimacy and development, this course will introduce some of the common issues and themes concerned by the anthropology of disasters: Nature-culture, community, vulnerability, resilience, solidarity, social justice, politics of death, collective memory and representations. Drawing from these discussions, this course shows how disaster anthropologists may contribute to understanding and dealing with disasters. We hope that this course will provide students with the necessary tools to develop their knowledge and an interest in applying anthropological knowledge in the contexts of disasters.

5. 学修の到達目標：1. 災害問題について理解を深める。

2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。

3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Understanding disaster issues

2. Learn and Critically assess the ideas and practices related to disaster from the point of view of anthropology

3. Think practically about one can contribute to disaster activities.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースのイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 映画スクリーニング 1: Fighting for Nothing to Happen
- X. 想像的な災害コミュニティ
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 映画スクリーニング 2: 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

8. 成績評価方法：

出席、小テスト、ミニレポートを総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。

No textbook. Reading list and handouts.

10. 授業時間外学習：読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

Lectures notes and written memos based on the reading (articles and chapters). Review with other students after each lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB54213, 科目ナンバリング：LHM-CUA305J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語古典原書講読
2. Course Title (授業題目)：Classics in Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。
今セメスターは、第 12 章を訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read and translate selected chapters from Franz Boas, The Mind of Primitive Man (1938) and learn the academic way of understanding the classics.

This semester, we will read and translate chapter 12 using the 1965 version of the text.

5. 学修の到達目標：(1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
(2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Acquire academic translation skill.
2. Appreciate a classic in anthropological literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

- 第 1 回：導入、授業法式の説明
- 第 2 回：テキストについての解説
- 第 3 回：「文学部的」訳出法
- 第 4 回：テキスト訳出 P. 204-205
- 第 5 回：テキスト訳出 P. 206-207
- 第 6 回：テキスト訳出 P. 208-209
- 第 7 回：テキスト訳出 P. 210-211
- 第 8 回：テキスト訳出 P. 212-213
- 第 9 回：テキスト訳出 P. 214-215
- 第 10 回：テキスト訳出 P. 216-217
- 第 11 回：テキスト訳出 P. 218-219
- 第 12 回：テキスト訳出 P. 220-221
- 第 13 回：テキスト訳出 P. 222-223
- 第 14 回：テキスト訳出 P. 224-225
- 第 15 回：総括論

受講生は毎回、指定の箇所の訳文を 구글클래스ルーム で提出し、後日見本訳とその解説を参照して訳文を修正し、再提出する。

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

下訳の作成と修正作業（50%）、訳稿の検討への参加（50%）による。

9. 教科書および参考書：

Franz Boas, The Mind of Primitive Man, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.

10. 授業時間外学習：毎週、2 頁ほどの英文の下訳を作成する。授業での議論に基づいて、下訳を修正する。訳注作成のための資料収集と分析を行う。

Prepare translations for 2 pages of the text each week. Participate in classroom discussion on translations. Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

教室では、テキストの内容を重視しつつ、ボアズ人類学について自由に語り合いたい。英語を「使って」人類学的に考えるという練習をしてほしい。

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB64212, 科目ナンバリング：LHM-CUA305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学研究計画法
2. Course Title (授業題目)：Research Design in Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Develop a research proposal for graduation thesis. Learn how to choose a research topic and how to relate it to a larger anthropological theme.
5. 学修の到達目標：(1)文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。
(2)研究計画の立て方を体得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Learn anthropological methods
(2)Learn how to write a research proposal
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業計画
 1. 導入 授業方法の説明
 2. 研究トピックの探索
 3. 研究トピックの決定
 4. 研究テーマの探索 1 ブレーンストーミング
 5. 研究テーマの探索 2 研究室の過去の卒業論文の探索
 6. 研究テーマの探索 3 学術誌に掲載された論文の探索
 7. 研究テーマの探索 4 人類学理論書の探索
 8. 研究テーマの決定
 9. 研究計画書の作成 1 問題設定の執筆とクラス討論
 10. 研究計画書の作成 2 理論的背景の執筆とクラス討論
 11. 研究計画書の作成 3 民族誌的背景の執筆とクラス討論
 12. 研究計画書の作成 4 研究方法の執筆とクラス討論
 13. 口頭発表 1 パワーポイントの作成
 14. 口頭発表 2 パワーポイントを用いた発表練習 (前半)
 15. 口頭発表 3 パワーポイントを用いた発表練習 (後半)

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

8. 成績評価方法：

授業参加 [25%]
レジュメと口頭発表 [25%]
研究計画書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書・参考書は、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。
Google ドライブを利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

3回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB53313, 科目ナンバリング：LHM-CUA306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習
2. Course Title (授業題目) : How do we do fieldwork?
3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画を立案する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acquire them experientially through actual trials. In the first semester, we will discuss research methods and the types and characteristics of materials and make a research plan according to our own interests.
5. 学修の到達目標：文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 問題領域の確認
 3. 過去の実習テーマの検討
 4. 調査対象の検討
 5. 調査対象の決定
 6. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論①
 7. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論②
 8. フィールドワークに向けた文献調査の報告と討論③
 9. フィールドワーク計画の報告と討論①
 10. フィールドワーク計画の報告と討論②
 11. フィールドワーク計画の報告と討論③
 12. フィールドワーク計画の報告と討論④
 13. フィールドワークの成果発表①
 14. フィールドワークの成果発表②
 15. フィールドワークの成果発表③
8. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]
9. 教科書および参考書：

特定の教科書は用いず、必要資料は講義前に classroom にて適宜配布する。
10. 授業時間外学習：フィールドワークに向けたテーマ設定、文献調査等を事前に行った上で、各自のテーマに沿ったフィールドワークを遂行し、フィールドノートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

Semester : 6 単位数 : 2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB63313, 科目ナンバリング：LHM-CUA306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目) : Doing Fieldwork: Methods in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実際に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Fieldwork and ethnographic writing based on field research are the most basic research methods in cultural anthropology. In this class, we will discuss various techniques and methods, including how to set and construct the objectives of fieldwork and acquire them experientially through actual trials. In this semester, students will conduct research based on their own research plans, and complete each research and summarize the results through discussing the progress of the research in this class.

5. 学修の到達目標：文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each student will learn how to conduct fieldwork in cultural anthropology and how to write an ethnography.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

8. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%] 報告書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他: